

# 2013年度経営プラン

2013年5月  
古河電気工業株式会社  
取締役社長 柴田 光義

- ✓ 自動車部品事業などが好調で前年度比**増収・増益**
- ✓ 当期純利益**+147億円増**(-111⇒36億円)
- ✓ 有利子負債**9年連続減少**(5,847⇒3,205億円)  
04年3月末
- ✓ 自己資本比率**20%超**(18.3⇒20.2%)
- ✓ D/Eレシオ**2.0以下へ**(2.25⇒1.93)

# 2012年度実績

1. P&L、B/S 説明
2. 売上高・営業利益増減分析
3. セグメント別分析
4. 品種別売上数量

# 12年度P & L 当期純利益147億円増

(単位:億円)

P&L	11年度	12年度 公表予想	12年度 実績	増減	増減要因
	a		b	b-a	
<b>売上高</b>	9,188	9,500	<b>9,247</b>	+59	特殊要因(P.7参照)
<b>営業利益</b>	159	200	<b>178</b>	+18	特殊要因(P.8参照)
<b>経常利益</b>	129	175	<b>176</b>	+47	為替差益+27
<b>特別利益</b>	162		<b>29</b>	-133	固定資産・有価証券売却減 -139    タイ洪水保険+18
<b>特別損失</b>	-272		<b>-77</b>	+195	11年度に米国反トラスト-153 12年度に構造改革-39
<b>法人税等・調整額</b>	-115		<b>-70</b>	+45	11年度に税制改正+34
<b>少数株主損益</b>	-16		<b>-22</b>	-7	
<b>当期純利益</b>	-111	20	<b>36</b>	<b>+147</b>	

(注)損益的にマイナス項目には-をつけました

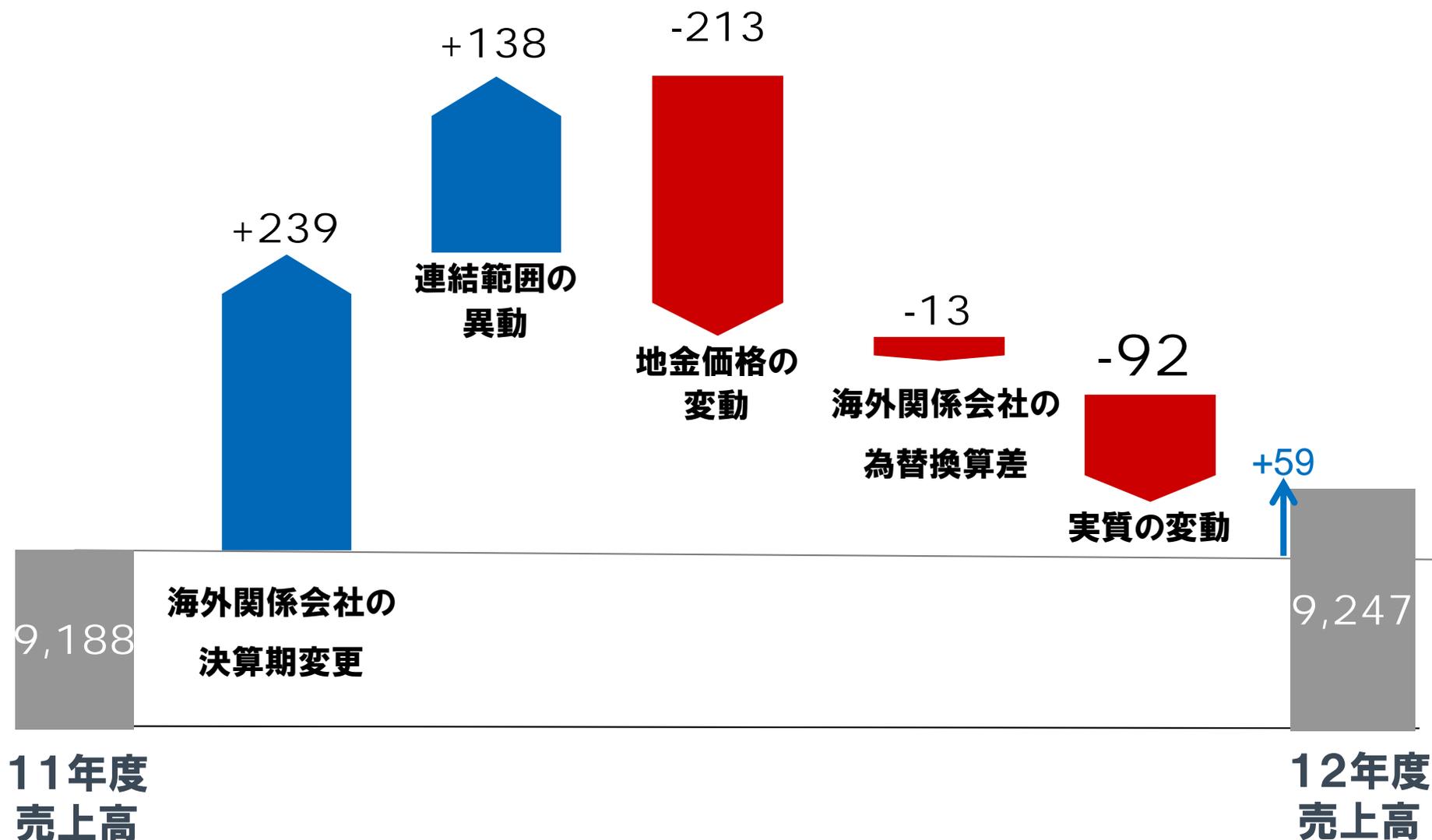
# 12年度末B/S 有利子負債9年連続減少

(総資産、有利子負債の単位:億円)

B/S	11年度末	12年度末 公表予想	12年度末	増減
	a		b	b-a
総資産	7,901	8,000	<b>8,197</b>	+296
有利子負債	3,252	3,200	<b>3,205</b>	-47
				<b>9年連続減</b>
自己資本比率	18.3%	19.2%	<b>20.2%</b>	+1.9
D/Eレシオ	2.25	2.08	<b>1.93</b>	-0.32
総資産回転率	1.16	1.19	<b>1.13</b>	-0.03
ROA(経常)	1.6%	2.2%	<b>2.1%</b>	+0.5

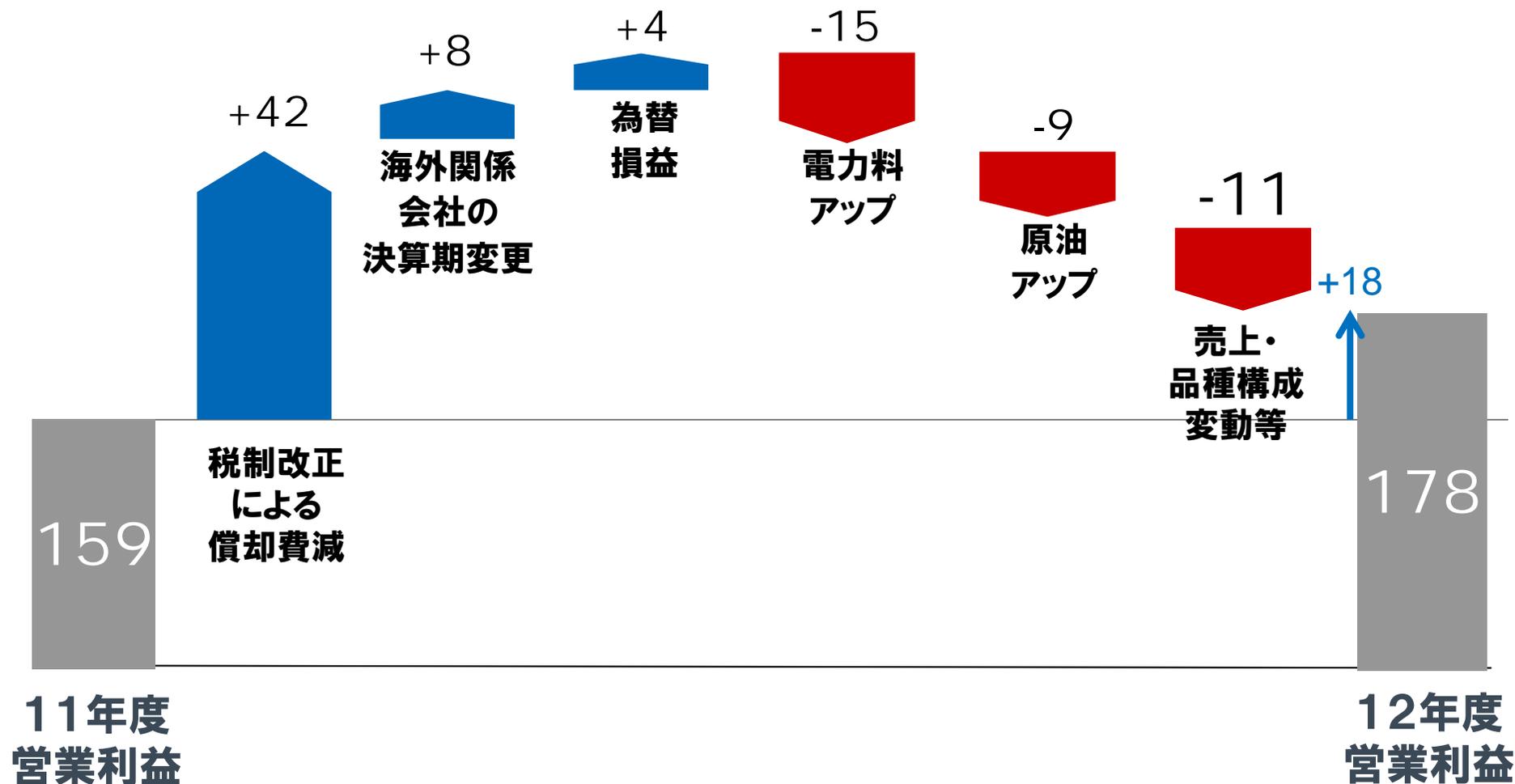
# 12年度 売上高増減分析

(単位:億円)



# 12年度 営業利益増減分析

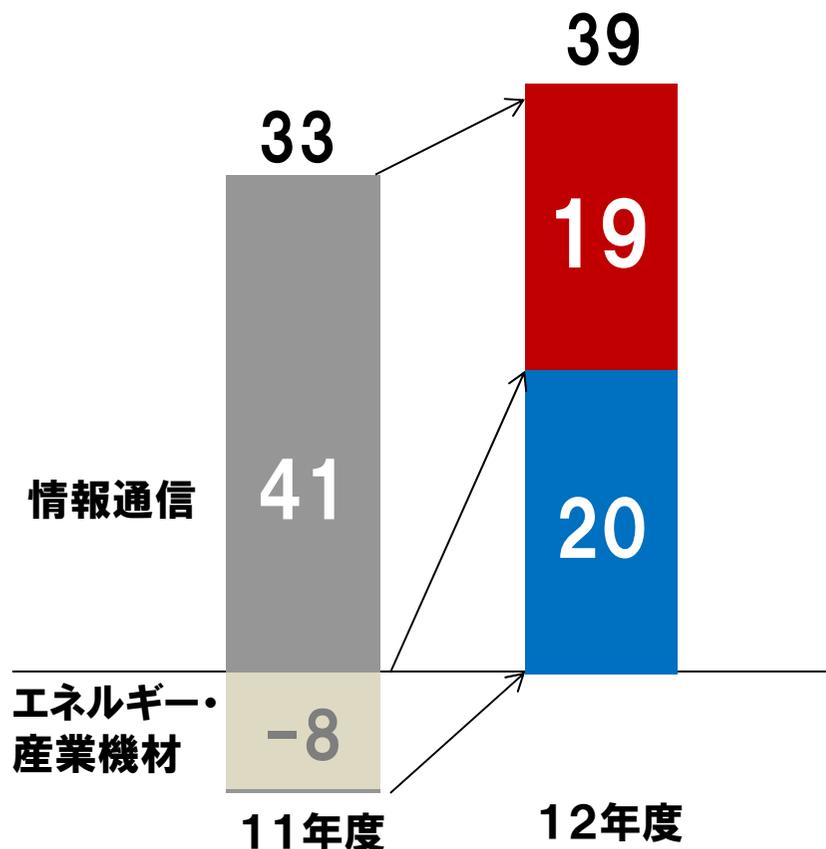
(単位:億円)



## セグメント別営業利益推移(前年度比)

伝送インフラ系: 33⇒39(+6)

(単位: 億円)



【情報通信】 41⇒19(-22)

●光ファイバ・ケーブル 22⇒20(-2)

国内工場でコストダウン効果があったものの、下半期から北米での景気刺激策の一巡や中国市場で在庫調整があったことや、南米のケーブル需要が税制恩典施行待ちによる買い控えで低調だったことなどにより減益となりました。

●フォトニクス・ネットワーク 18⇒-1(-19)

国内のCATV向け機器需要が端境期だったこと等により大幅減益となりましたが、4Qにタイでの3G携帯電話工事が立ち上がってきました。

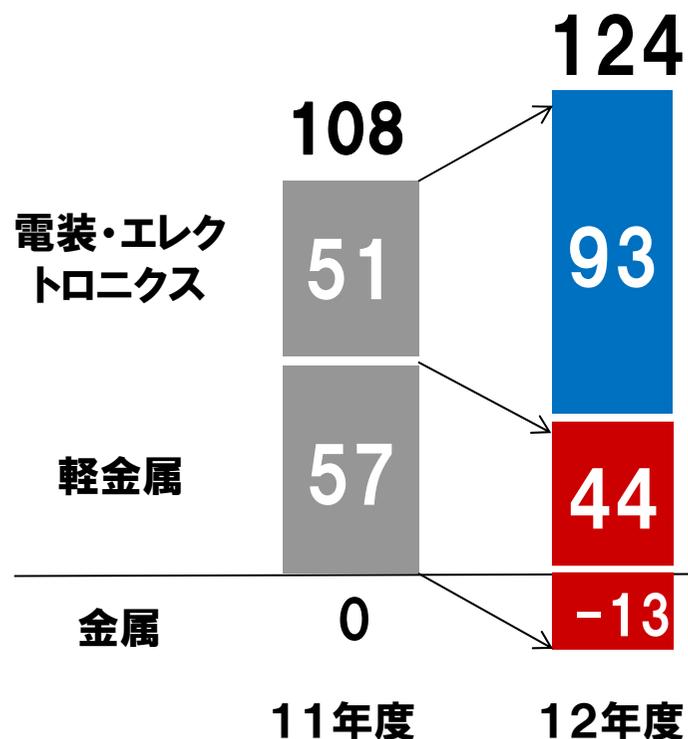
【エネルギー・産業機材】 -8⇒20(+27)

電力ケーブルの需要が国内で低調であり、また、中国でも受注が低迷したものの、産業機材分野では、LED液晶TV用MCPETの需要が上半期までは好調だったことや、スマホ・タブレット向け半導体製造用テープの需要が伸長したことなどにより大幅増益となりました。

## セグメント別営業利益推移(前年度比)

高機能素材系: 108⇒124(+16)

(単位: 億円)



【電装・エレクトロニクス】 51⇒93(+42)

自動車分野で輸出用大型車や軽自動車向けワイヤーハーネスの売上が増加したことなどにより、増益となりました。

【金属】 0⇒-13(-12)

EV・エレクトロニクス分野での不振が続き、リードフレーム用銅条やリチウムイオン電池用銅箔の需要が低調だったことなどにより、減益となりました。

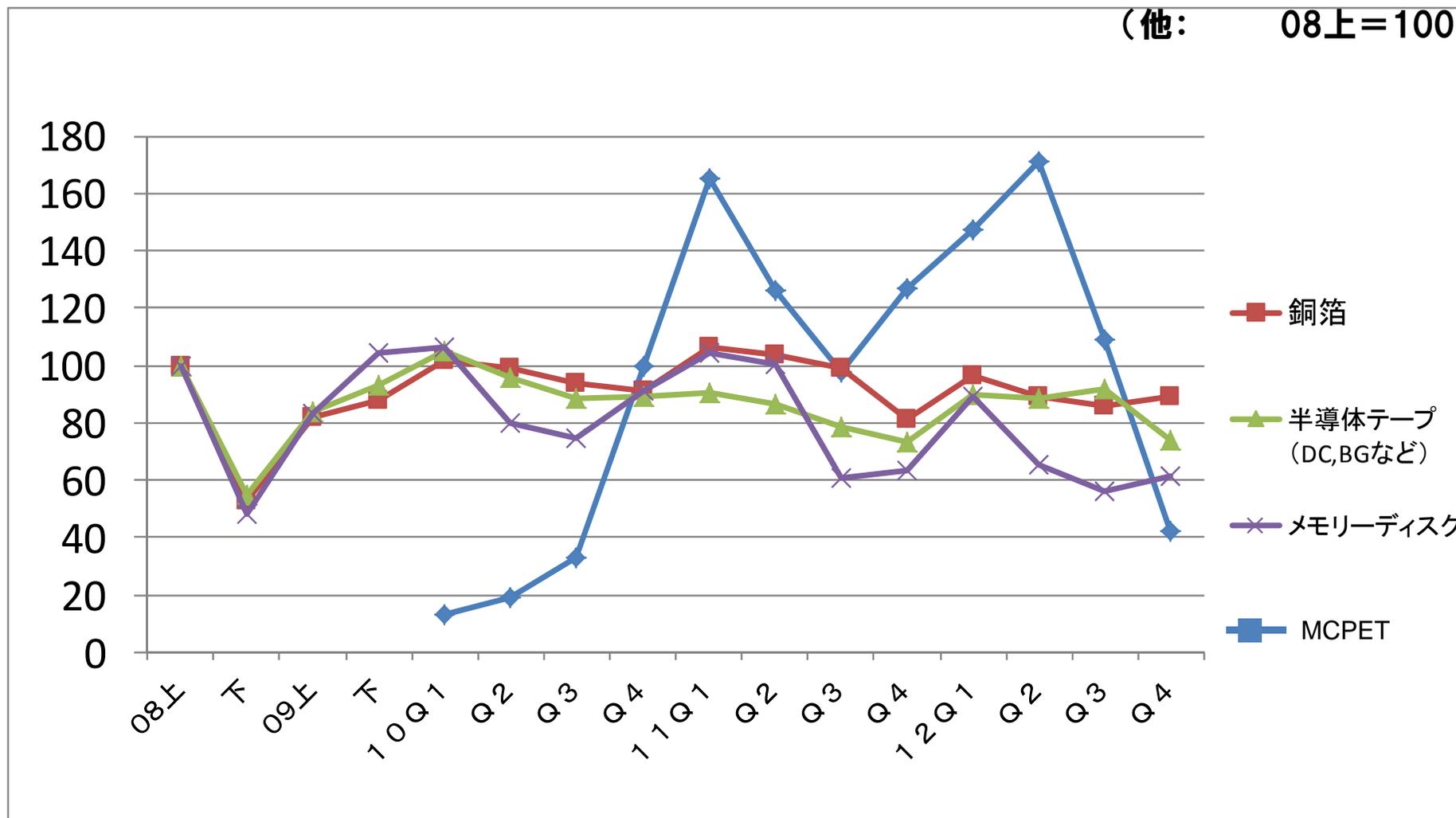
【軽金属】 57⇒44(-13)

アルミ箔地材を始め、全般的に売上数量が伸び悩んだことから、減益となりました。

# 《高機能素材》 売上数量指数推移

(MCPET:10Q4=100)

(他: 08上=100)



# 2013年度経営プラン

## 1. 事業環境認識

## 2. 業績予想

## 3. セグメント情報

## 4. 配当予想

## 情報通信

**光ファイバ・ケーブル:** 中国の在庫調整が終了し、需要は年末まで堅調に推移、13年度の全世界需要は+5%前後伸びる見通し。日米は伸びないが、BRICsが牽引。

**フォトニクス・ネットワーク:** 13年度はデジタルコヒーレント需要が本格化。国内FTTH投資は頭打ちも、東南アジアで携帯3G、FTTH投資が活況

## エネルギー

**超高压関連:** 地中線は新興国を中心に需要は旺盛も、中国は穏やかな増加。日本は受注量減少が続く。海底線は欧州を中心に需要が旺盛

**建設関連:** 建築着工数に大きな変化はなく、微増が続く見込み  
首都圏の再開発やメガソーラーで建設用ケーブル需要拡大  
復興需要は年度末頃から動きが出てくる模様

## 自動車 →

**国内自動車生産:** 12年度の国内自動車生産台数は+3.6%増の819万台  
13年度はほぼ前年並みの見込みだが、当社品採用の  
軽自動車や輸出車種は堅調に推移する見込み

**自動車用LiB関連:** EV車の普及は先送りになると見ているが、HEV、PHEV  
販売増で増量の見込み

## エレクトロニクス →

**液晶・半導体関連:** 液晶は横ばいを予想。半導体は5%程度の伸びを予想。

**パソコン・スマホ関連:** パソコンは依然低調で、13年度も対前年比下落傾向  
12年度のスマホ・タブレット用需要一服も、新製品の  
投入による需要増に期待

# 13年度P&L予想 前年度比営業利益40%増

(単位:億円)

	12年度実績	13年度予想	増減
<b>売上高</b>	9,247	9,400	+153
<b>営業利益</b>	178	250	+72
<b>経常利益</b>	176	240	+64
<b>当期利益</b>	36	50	+14
<b>諸元</b>			
<b>為替レート(円/ドル)</b>	79.8	95	+15.2
<b>銅建値(円/kg)</b>	696.4	700	+3.6
<b>ドバイ原油(ドル/バレル)</b>	107	108	+1

為替レート 1~12月平均(12年4月~13年3月平均は82.9円)

銅・原油 4~3月平均

# 13年度B/S予想 有利子負債圧縮10年連続へ

(総資産、有利子負債の単位:億円)

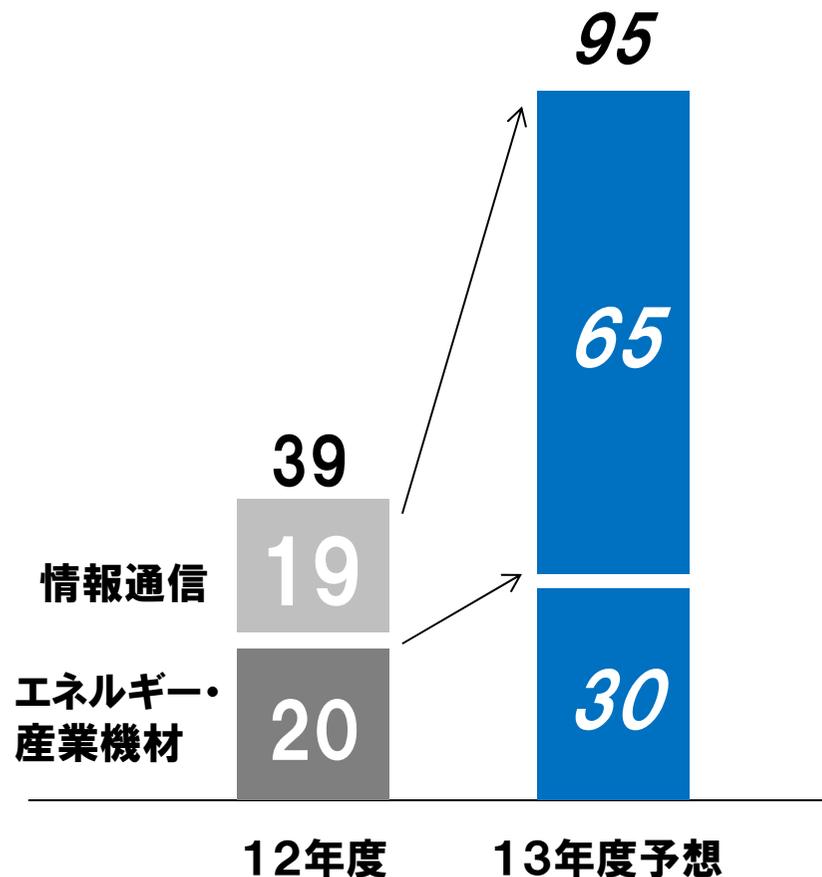
	12年度末	13年度末予想	増減
総資産	8,197	6,900	-1,297
有利子負債	3,205	2,760	-445
			<b>10年連続減へ</b>
自己資本比率	20.2%	23.8%	+3.6
D/Eレシオ	1.93	1.68	-0.25
総資産回転率	1.13	1.22*	+0.09
ROA(経常)	2.1%	3.5%	+1.4

\*13年度の総資産回転率の売上高は  
上期の軽金属分を除いたベース

# セグメント別営業利益予想

(単位:億円)

伝送インフラ系:39⇒95 (+56)



【情報通信】 19⇒65(+46)

●光ファイバ・ケーブル 20⇒45(+25)

日本では、光ケーブルの生産集約を行うこと、海外では、新興国での光ファイバの需要増、南米での税恩典施行で光ケーブルの需要が増えることに加え、輸出品や海外関係会社で円安効果が発生することなどにより、大幅増益を見込んでいます。

●フォトニクス・ネットワーク -1⇒20(+21)

デジタルコヒーレント通信が本格化してくること、タイで3G携帯設備工事が活況を呈していることなどにより、増益を見込んでいます。

【エネルギー・産業機材】 20⇒30(+10)

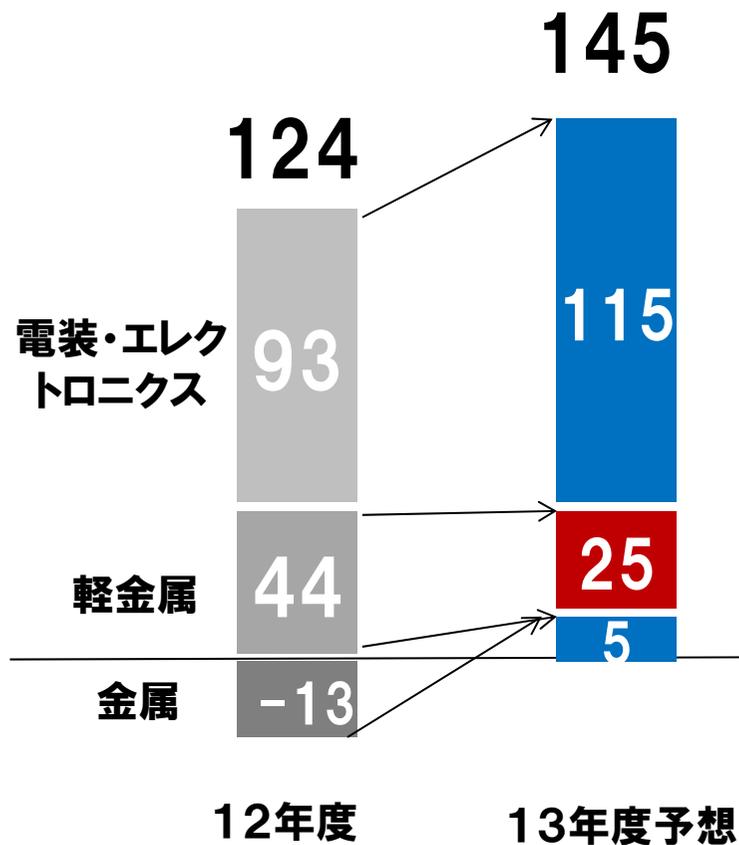
エネルギー分野では、銅線の工場集約や、電力部品3社の統合効果、インドネシアの銅線の売上増、また、中国高圧ケーブルで銅価管理の改善等で、回復を見込んでいます。

産業機材分野では、LED液晶TV用MCPETの需要が低迷することや、スマホ・タブレット用半導体向けテープの需要が一服するという前提で、前年度より若干の減益と見込んでいます。

# セグメント別営業利益予想

(単位:億円)

高機能素材系: 124 ⇒ 145(+21)



【電装・エレクトロニクス】 93⇒115(+22)

自動車用ワイヤーハーネス・部品で売上増が見込まれることや、3層絶縁電線の完全海外生産移管や巻線での不採算品種からの撤退などにより、増益となる見込みです。

【金属】 -13⇒5(+18)

銅箔で今市工場から台湾への生産移管を進めること、銅条で日光工場での生産性を向上させること、また、アジアで回路用銅箔の需要回復しつつあることや、薄箔の新規需要が期待されることなどから、増益となる見込みです。

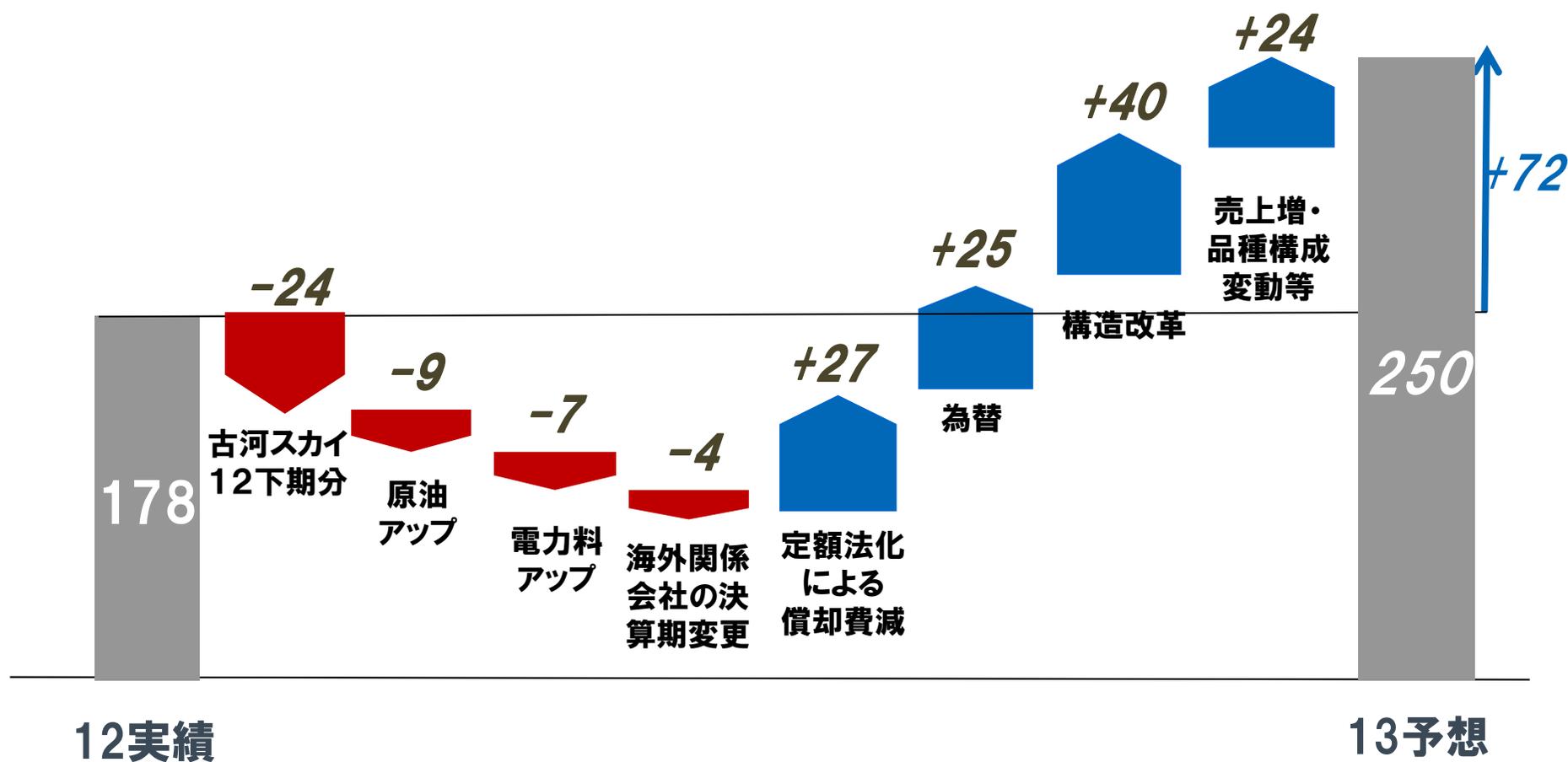
【軽金属】 44⇒25(-19)

円安の影響もあり、海外での競争力が回復する見込みです。

2013年10月1日に古河スカイと住友軽金属が経営統合することにより、以降は持分法適用会社となるため、営業利益は上半期分のみの連結となります。

(単位:億円)

## 構造改革と売上増による利益積み上げで250億円



# 13年度配当予想 前年度と同額

	12年度実績	13年度予想	増 減
年間配当	3.0円	3.0円	0円

当社は、安定配当を基本としながら、長期的な視野にたって、今後の収益動向を見据えつつ、将来の事業展開も考慮のうえ、配当を行うことを基本としております。13年度も未だ業績が回復途上であるため、中間期末は見送り、期末3.0円と予想いたしました。

# 2015中計フォロー

## 1. 15中計施策と13年度施策

## 2. 海外売上高推移

## 3. P&L、B/S

## 光ファイバ・ケーブル

➤ 15中計施策  
⇒ 13年度施策

- ファイバの生産・供給体制をグローバルで最適化  
⇒ 中国合併ファイバ製造会社の本格稼働
- 光ケーブル拠点の拡充と成長市場への拡販  
⇒ ブラジルでの能力増強
- グループ拠点の一角として、ファイバのコストダウンを推進  
⇒ コストダウン・製造技術の改良を継続
- 光ケーブル拠点を三重に集約、国内需要に見合う供給体制を確立  
⇒ 三重工場への集約

## フォトニクス・ネットワーク

- デジタルコヒーレント向け新製品を投入  
⇒ 狭線幅ITLA小型版の開発
- 南米、東南アジアでのブロードバンド案件の獲得  
⇒ 南米での受注に向け、FISAとの「組織的活動」を具体化
- フォトニクス技術の応用展開：ファイバレーザ、光インターコネクション  
⇒ キロワット級ファイバレーザの量産開始  
⇒ 光エンジンのタイでの量産および次期28G品のサンプル出荷開始
- ネットワーク技術のスマートグリッド市場への展開

➤ 15中計施策  
⇒ 13年度施策

## 超高压

- 海底送電ケーブル能力を倍増(ビスキャス)  
⇒ 建設中の大型豎燃機は年度内に完成、14年度より本格稼働
- 中国瀋陽のOUT-OUTビジネスを拡大  
⇒ 海外規格認証取得とアジア地区での拡販強化
- OPGW事業はブラジルの通信事業拠点を活用し、グローバル展開を加速  
⇒ FISAでの本格稼働スタート

## 給配電

- 現地パートナーとの連携+技術優位性を活かし、海外展開を強化  
⇒ 華通古河の売上拡大
- 新エネルギー向け需要を取り込み(風力、太陽光等)  
⇒ 福島県の洋上風力PJを計画通りに進行させること

## 蓄電システム

- 産業用蓄電システムの拡販
- スマートグリッド用蓄電システムの開発

## 自動車関連部品

➤ 15中計施策  
⇒ 13年度施策

- 営業・設計・調達を行う地域統括会社を設立
  - ⇒ 中国、東南アジアに地域統括会社を設立
- 東南アジア、中南米を中心に生産拠点の増設
  - ⇒ メキシコで2社目の現地日系メーカー向けワイヤーハーネス会社設立
- ワイヤーハーネスはグローバル日系・新興国ローカルをターゲット
- SRC世界シェア1位の堅持・シェアアップ
  - ⇒ ブラジル／インドでエアバック規制をにらんだ現地生産準備（14年度稼働）
- 材料費，加工費，固定費等の徹底した原価低減活動
- 素材変換の新製品提案
  - ・アルミハーネスの普及促進
  - ・アイドリングストップ対応”UltraBattery”とバッテリー状態検知センサのパッケージ拡販
  - ・モーター用高機能巻線の拡販
  - ・リチウムイオン電池用集電体(銅箔)のHEV・PHEV市場への展開

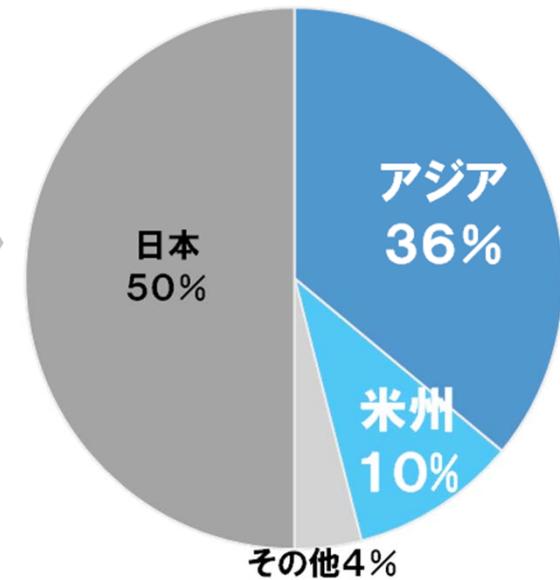
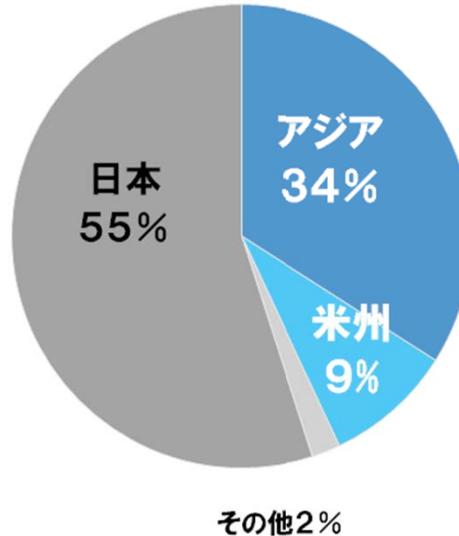
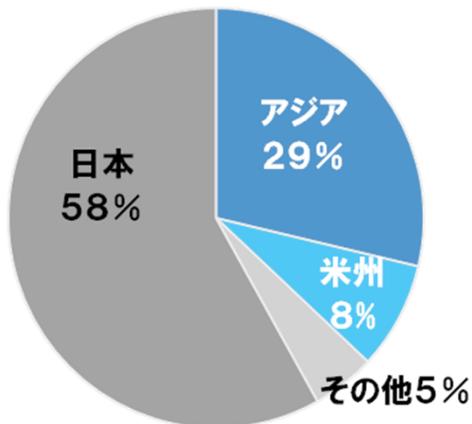
# 海外売上高比率も拡大（除く軽金属）

## 13年度アジア中心に増やし45%に（15中計目標50%）

12実績  
海外3,159/  
全体7,547  
=42%

13予想  
海外3,780/  
全体8,400  
=45%

15計画  
海外4,500/  
全体9,000  
=50%



# P & L 13年度予想⇒15中期計画

(単位:億円)

	12年度実績	13年度予想	15中期計画	増減
		a	b	b-a
売上高	9,247	9,400	9,000	-400
営業利益	178	250	380	+130
経常利益	176	240	400	+160
当期利益	36	50	200	+150

13年度予想売上高9,400 営業利益250のうち、軽金属(古河スカイ)分は  
売上高930 営業利益30

除く軽金属では

増減

売上高 13予想 8,470 ⇒ 15中計 9,000 (+530)  
営業利益 13予想 220 ⇒ 15中計 380 (+160)

# B/S 13年度末予想⇒15年度末計画

(総資産、有利子負債の単位:億円)

	12年度末	13年度末予想	15中期計画	増減
		a	b	b-a
総資産	8,197	6,900	7,000	+100
有利子負債	3,205	2,760	2,400	-360
自己資本比率	20.2%	23.8%	26.3%	+2.5
D/Eレシオ	1.93	1.68	1.3	-0.38
総資産回転率	1.13	1.22*	1.3	+0.08
ROA(経常)	2.1%	3.5%	5.7%	+2.2

\*13年度の総資産回転率の売上高は  
上期の古河スカイ(軽金属)分を除く

ご清聴ありがとうございました。

*Bound to*  *Innovate*

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社